

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みんなのこども園あるたす		
○保護者評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年1月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15世帯	(回答者数) 9世帯
○従業者評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月24日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	インクルーシブ教育、環境	障がいの有無にかかわらず、子どもたちがお互いに関係性を保ちながらともに学び、ともに育ち、ともに成長していくお手伝いをさせていただいている。	同系列の保育施設と日々交流を行っている。
2	多職種連携による専門性を持ち備えた質の高い療育の提供。(保育士、看護師、作業療法士、心理の配置)	様々な職種の職員間でもコミュニケーションを密にしていくことで信頼関係とチームワークの構築を図ることで必要に応じた個別、小集団療育の実施が可能となっている。	社内外の研修等を活用し、職員個々のスキルアップを図っていき、より高い療育を実施していきたい。
3	利用児の療育の様子や家庭での様子、保護者の状況等様々な情報を職員間で周知し子どもやご家庭を十分に理解した上での適切な支援。	個々の職員の強みを生かしながら、普段から保護者と口頭や連絡帳でのやり取り等で気になること、成長面、不安や悩みを把握し一人ひとりに丁寧に対応している。	発達に関し他知識や療育内容について全職員で共通理解できるよう内部、外部研修に参加していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域とのつながりが薄い。	地域の行事(七夕まつり、パラアート展、お大師さん祭り、十日えびす祭り)のみ参加しており自主的な地域交流がない。	子どもたちの散歩や戸外活動を通して地域の方々と交流し発達支援事業へ御理解を求めていく機会を作る。何ができるのか職員間で考えていく。
2	療育活動を見ていただく機会が少ない。	単独通園での療育の場であるため保護者に見ていただく機会が少ない。	ホームページや活動の写真販売などで様子を見ていただく機会を作る。
3	保護者同士の交流の機会が少ない。	働いておられる保護者も多く、交流の場の設定が難しい。	保護者からのニーズがあれば交流の場を設定していく。